

第57回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 令和4年2月16日（水）午前9時～午前11時00分
- 3 場所 川崎フロンティアビル9階 市民文化局会議室（テレビ会議システムを利用）
- 4 出席者
 - （1）委員 8名（テレビ会議システムによる出席）
秋山委員、犬飼委員、垣内委員、川崎委員、佐藤（敦）委員、佐藤（昌）委員、関委員、藤嶋委員
 - （2）事務局（市民文化局市民文化振興室）
山崎室長、藤堂担当課長、山口担当係長、彌本職員
 - （3）その他（ヒアリング対象者）
アートセンター、文化財団、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）
- 5 議事 令和3年度文化アセスメントについて（オンライン配信と文化芸術活動）
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【議事内容】

垣内議長 議題の令和3年度文化アセスメントについて各事業担当へのヒアリングを実施します。まずは資料1-3「アートセンター管理運営事業」の御質問をお願いします。

関委員 アートセンターのアーカイブで公開している事業は演劇的には難しいと思います。舞台と客席との一体感が大事な中でどのような課題を持ちながら実施したのか、今後への取組みも含めて伺います。

アートセンター（以下「センター」と記載）

実演芸術を映像で、というのは届けたいものが十分に届かないことがあります。視聴者が自身の目線とは違うカット割りで観る、ガイドによって煩わしさを感じる、など必ずしもオンライン配信が主流にはなりえず、最終的には劇場に戻ってもらうための補助に留まるべきと思います。今回一番難しかったのは、こちらと配信側とのスタッフ間でのクオリティの差、音響や作品に対する理解度などをどこまですり合わせるかでした。あとはコロナ対策などで当初よりも予算がかかり、その点も定着するにはハードルがあります。ただ、感染に不安がある方、地方から家族が来られない方が自宅からつながれた点は有効なツールだったと思います。今後も継続すると現段階では言えず、情勢とコストを見ながらの判断となります。

関委員 外出できない人が演劇に親しむ機会となった点では有意義だったと思います。広報についてはどのように行ったか、今後のことも含めて教えてください。

センター 両作品とも緊急事態宣言やガイドラインを見ながら判断したので、配信だけ別にスケジュールを組んでチラシや SNS で発信しました。チラシについては、通常と異なりオンライン配信専用のチケット購入サイトに飛べるよう QR コードを付けました。去年は対応だけで精一杯でしたが、今後はより多くの方に届くやり方を検討します。

秋山委員 視聴者の利便性の観点から、出演者や演出者をテロップで紹介することは検討したのでしょうか。

センター ライブ配信だとその場でネット回線をつないで会場内でスイッチングをしながらやるため、収録のように編集ができません。YouTube の限定公開で委員さんが観たものとは異なり、観劇三昧では最後にクレジットを流しましたが、ライブ配信ではそれが限界です。後から配信であれば完成度を上げられますが、今回は公演期間中に配信する形を選択しました。

垣内議長 2点お伺いします。1点目は、オンライン配信が収益の柱になるのか。現在の体制では難しくても、ハイブリッド型にして劇場に来られない方を取り込む可能性が見えたのか、それとも非接触型のアピールとしてのツールなのか、その辺りを現場としてどうお考えでしょうか。2点目は収支について現在は助成金などで賄えていても、助成金自体が継続していくとも考えにくい中、今後の展望をお伺いします。

センター 1点目の収益については、現状厳しいです。年配の方が買いづらい環境、クレジット決済に対する抵抗があることと、劇場に比べて配信のチケット代を大きく下げていることが要因です。金額については、配信の画像のクオリティの差だけが理由ではなく、実演芸術の限界、「やっぱり劇場がいい」という根本的意識もあると思います。2点目の助成金については、劇場音楽堂の助成金を神奈川県から受けるなどして、PCR 検査にかかる費用などを賄うことができた反面、昨年 12 月劇団わが町の配信では、助成金の採択を受けられず、かなり遡って舞台費等を工夫しないとけいず、助成金なしでは運営できないのが現状です。

垣内議長 逆に若い方が潜在的なマーケットになる気配はありますか。

センター 例えば、出演者関係の方はお互いに配信を観あうことをしており、慣れている方は若い方でもオンライン配信に流れているようです。また、劇団わが町の出演者が祖父母に配信チケットを購入していることや、観劇三昧も配信チケットをプレゼントする取組を行っていると聞きます。

関委員 演劇は現状難しい印象があり、今後も改善をしていく必要があると思います。

垣内議長 では、資料 1-4 「文化財団補助事業」のヒアリングに移ります。

藤嶋委員 伝統芸能がどれくらい若い人に浸透しているか分かりませんが、ある程度編集をするなどメリハリをつければ多くの視聴者を引き付けられるのではと思いました。

垣内議長 この事業は予算がゼロであり、時間的、予算的制約などの問題がありました。その中で、クオリティ面で工夫できる余地があればそれも併せて御指摘ください。

文化財団 この事業は予算ゼロであり、職員自ら無料ソフトを使い撮影をした関係で、クオ

リティ面では厳しいですが、今後改善していきたいと思います。特に上映時間が長くと観る人が飽きるため、編集や字幕、補足説明などで工夫したいと思います。

犬飼委員 ミュートンというキャラクターを使った能楽堂紹介ビデオについて、楽しく拝見しました。能を知らない人への紹介動画としてよいと思いますが、音声解説がなく、解説が長文のため文字を読むことが大変でした。

文化財団 ミュートンのキャラクターのイメージを崩さないため、音声は入れられません。また、文字を読むのが難しく、切り替えが早い点については、欄外に「一時停止してご覧ください。」という案内をすることが現時点でできる対応だと思います。

佐藤(敦)委員 私も犬飼委員と同じように読むのが大変でした。また、「一時停止して見て」というのも不親切に感じます。ミュートンのキャラクターは可愛らしく、最初は子供向けかと思いましたが、内容は専門性が高く、文字だけでの説明では大人向けかと思えました。ターゲットを明確にし、わかりやすい構成が必要です。内容は難しく思える能について丁寧に解説されているため、きちんと音声を入れるなどすれば、小中高生へのアウトリーチとして、事前学習用として良いものと考えます。

文化財団 能については夏休みに小学生向けの能楽体験・鑑賞教室も実施しており、また、「ようこそ能楽堂へ」という子ども向けのチラシも作成し配布しています。

関委員 登場人物がミュートンだけであり、人の姿がないのは寂しく思えましたが、能という敷居の高いものを、柔らかく伝えている点は良いと思えました。

川崎委員 「伝統芸能の普及発展」という目的に向けて取り組む場合、映像を2次利用する際の権利関係の整理が必要だと思います。

文化財団 「能楽堂探検」の動画にでてくるミュートンは文化財団と音楽のまち・かわさき推進協議会で権利を保有していますが、「定期能事前講座」は各出演者に了承を得て公開しているため、2次利用をするには再度了承を取る必要があります。

秋山委員 伝統芸能という性質上、どのような年齢層が視聴されているのでしょうか。

文化財団 受講者や来館者などにも周知をしているため、子供から大人まで幅広い年代の方が視聴されていると思います。

垣内委員 職員が自前で撮影、編集などを行ったとのことでしたが、作品制作にはどれくらいの時間や手間がかかったのでしょうか。

文化財団 パソコンのスペックが低いため、動画データの変換に非常に時間がかかりました。講座のほうは出演者の確認などの調整もありましたが、2週間以内に完成する必要があるため、簡便な方法に転換していきたいと考えています。今回頂いた意見や提案は、こちらの中でも共有し今後に活かしたいと思います。

垣内議長 では、資料1-5「映像のまち・かわさき推進フォーラム」に移ります。

藤嶋委員 映像のまちの取組としてどのように広報しているのですか。

映像のまち・かわさき推進フォーラム（以下「フォーラム」と記載）

もともと今回の「オープンセミナー」はケーブルテレビでの放送を前提に企画したものです。ケーブルテレビ3社は、鉄道沿線にそれぞれユーザーがいて、競合とならないので、1社が制作したコンテンツを他の2社でも放送することが可能です。これについては、2012年から2015年までの4年間、フォーラムと毎日新聞社、チ

ネチッタ、日本映画大学、YOU テレビが協働で実施した「チネチッタ名画座」の時にも同じように3社で放送されていて、その経験をもとに企画段階からケーブルテレビでの放送を前提に企画しました。また、ケーブル3社の契約世帯数は、合計で約90万世帯になりますが、ユーザーの1%として9000世帯が見たという換算になると思います。

秋山委員 コンテンツを提供することが劇場に足を運ぶ橋渡しになると思います。カワサキハロウィンは若い人向け、学生向け、の催しのように考えられますが、どのような人が考えたのでしょうか。

フォーラム チッタエンタテイメントについて、カワサキハロウィンを立ち上げた方は50代くらいと思いますが、日本最大級のハロウィンイベントとして実施され続けた24年間で世代交代もあり、今は20代30代の若いスタッフが多いと思います。

川崎委員 YouTubeにコンテンツをあげることはどのような効果がありますか。川崎のプレゼンスがどのくらい上がるのか、その点はどのように考えていますか。

フォーラム YouTubeの世界では、今回のセミナーのような企画はあまり歓迎されないと思っています。YouTubeで注目を集めるためには、魅力的なコンテンツを更新続ける必要があります、予算とマンパワーが必要ですが、それが現在のフォーラムの課題です。

藤嶋委員 オンライン化について、若い世代とそうでない世代との分断を感じます。コロナによってリモートで会議などを行うことが多くなり、当初は不便でしたが、取り残されないようにしようと思います。

フォーラム 会議の内容、弾み方についても対面のほうがやっていて満足感があつたと私は思います。コンサート、演劇などもリアルでやれた方が文化的には良いですが、その一方でYouTubeやTikTokなど動画コンテンツサービスのやり方も研究しなくてはいけない状況です。明日行われるフォーラム全体交流会のセミナーについても、YouTuberのプロモーションしているUUUM株式会社の方に講演をお願いしています。

川崎委員 ケーブルテレビからYouTubeのコンテンツの話について、映像のまちかわさき推進フォーラムだけで1年間以上回していくのは難しいと思います。政策的に介入し、いわゆるプラットフォームを作り、例えばアートセンターなどを巻き込みながら、年に1回コンテンツを作成、更新し、アーカイブとして残していくことが考えられると思います。私がいる中央大学も各学部ではなく大学全体で、その時々の特ピックの映像をj:comに委託し制作しており、それらはオープンキャンパスなどで公開しています。特にコロナ禍の対面が難しい現状において、このような映像コンテンツを残すことは、川崎市としてのプレゼンスを高めていく意味でも必要であり、市と様々な団体とが政策的な連携を取ることが方法の一つかと思います。

垣内議長 最後に資料1-2「川崎シンフォニーホール管理運営事業」をお願いします。

佐藤(昌)委員 2点お伺いします。まずライブ配信について、カメラ8台を設置ということからも、高音質だと思いますが、パソコンやスマートフォンなど視聴する側の環境は様々です。特にクラシックはダイナミックレンジが非常に広い曲が多く、スマートフォンでは聞き取りづらいなどがあり得ると思いますが、実際の配信はどうだったのでしょうか。2点目は2021年度のフェスタサマーミュージアとしては19日間17公演行

われたわけですが、これらの公演の全体像の統括をしている方はいるのでしょうか。

ミュージザ 1つ目の音質・画質について、御指摘のとおりカメラ8台をステージやバックステージなどに配置し、NHK や日本テレビなどのコンサート中継と同等クオリティのスイッチング等を行い、画像を臨場感のあるフルハイビジョンで提供しました。音質についても、通常の吊りマイクに加えて舞台上の補助マイクを複数設置し、レコーディングのエンジニアが対応して、ほぼ CD のレコーディングと同等の音質を提供しました。

2つ目ですが、フェスタサマーミュージザのプログラミングを全て決める監督はならず、各オーケストラの監督からの提案等を踏まえ、重複しないように事務局が調整しました。また、土日の公演はポピュラーな楽曲、平日夜は定期音楽会に来る方が満足する楽曲、平日の昼間はシニア層の方が満足できる楽曲と整理してセット券を組み、複数の公演を聴き比べて違いを楽しめることをコンセプトにして音楽祭を運営しました。

関委員 配信でコンサートを聴いたことは素晴らしい体験でした。生で鑑賞したことは何回かありますが、映像配信だと各演奏者の表情など細かいところが分かり、新しい芸術の鑑賞方法だと感じました。お伺いしたいのは、参加者に占める川崎市民の割合について、2015年には全体の34%が川崎市民だったのが、今は20%ほどに低下していることについてです。川崎市民の数は変化していないが分母が増えたために割合が減ったのでしょうか。また、先ほど音質の話について、アンケートでは恐らくスマートフォンで聴いている若い人から音質が良くないとの回答が多く、いくら配信側がいい音質で提供しても視聴環境が追い付かなければ意味がないと思うのですが、その点はどう考えていますか。感想としては、素晴らしい演奏を体験でき、配信だけでも収益性があると思われました。

ミュージザ 1つ目の川崎市民の比率について、コロナ前の話ですが、全体数が過去最高を更新しているなど分母が増えたことにより、川崎市民の割合が減ったというのが実情です。多くはありませんが新幹線や飛行機で来場される方をアンケートなどで確認しています。2つ目の視聴側の音質について、視聴側の環境、特にスマートフォンの小さなスピーカーでは低音が出ないことは承知しています。しかし、最近では高品質なヘッドホンを使うなどお客様も工夫されているので、提供側も良いものを担保できるように心がけています。また、収支について、全体的に費用は掛かっていますが、配信チケットの収入と国からの助成金などを活用しながら収支のバランスを取っており、現在の所はトントンでできています。ただ、2020年は急に起きたコロナ禍でオンライン配信に対する関心が強かったですが、2021年はその反動で低下しています。3年目の2022年は巻き返しを図るべくプロモーションなどを検討しているところです。将来的にはオンライン配信が収益の柱になるとは考えていませんが、川崎発の良質な音楽が全国に発信される点を活用し、川崎のシティイメージの向上を主眼に置いて取り組んでいきます。また、上質なオーケストラ公演は地方の県庁所在地でも聞くのが難しい実情もあり、そういった方への提供は価値があると思うので、収支上バランスが取れる範囲内で取り組みたいです。

佐藤(敦)委員 2点あります。まず、今回のアーカイブは昨年8月31日までで、それ以降は権

利の関係上アーカイブ配信の予定は無いとアンケートにあります。例えばベルリンフィルなどはデジタルコンテンツのアーカイブをサブスクリプションにより提供しており、それは世界のベルリンフィルだからとも言えますが、ミュンヘンも日本のクラシックファンから高い位置づけをされており、過去に神公演と称されたものもあります。過去のコンテンツを配信し収益を得ることは権利関係を考慮しても現状可能なのでしょうか。

2点目は、オンライン配信を行ったことにより追加事務が発生したとのことでしたが、具体的にどこが大変だったのでしょうか。世界的な流れを見ると、コロナがある程度終息してもデジタルコンテンツとリアルを共存させていく潮流が残ると考えられ、継続するにあたりその追加事務をどうやって乗り越えるのかお伺いします。

ミュンヘン 1つ目のアーカイブのサブスクリプションについて、我々もベルリンフィルのような形を目指したいと考えています。しかし、ベルリンフィルはホールとオーケストラが一体運営である一方、ミュンヘンは建物だけでオーケストラは別の団体であり、権利上それぞれと交渉しなくてはならない点が障害です。実際世界中でもオーケストラ公演をサブスクリプションで提供しているのはベルリンフィルくらいであり、他の団体は課金して収益を得ることができていません。我々としては、各団体の理解を得ながら徐々に、期間限定でもいいので、プロモーションの一環で企画はできたらと考えています。

2点目の追加事務の件ですが、事前準備として収録を行うため、舞台配置や楽譜、テロップの確認などが他団体は月に3本程度ですが、ミュンヘンでは短期間で20本近く必要となります。また、事業後は厳格に規定されている助成金の申請があり、それが20本となるとやはりかなりの事務量です。

佐藤(敦) 委員 今後アーカイブ利用を前提として各団体と契約を行うなどの話を海外の文化施設の方から聞きましたが、そのように進めていければ良いなと感じます。

垣内議長 現状はどのような契約ですか。

ミュンヘン サマーミュンヘンは個々のオーケストラに対して、次回の出演を確約しておらず、程よい緊張関係を保ちながらより良いものを作ることを念頭に置いています。NHK交響楽団とNHK、もしくは読売日本交響楽団と日本テレビなどだと包括的に話が進められますが、確約の無い状態、インセンティブが具体的に見えない状態で交渉することは難しいです。現在はリアルタイム放送と見逃し配信的に8月末までは許諾があり、将来的にはその期間を延ばしたいですが、まだオーケストラ側の理解が追いついてない状態であり、これから視聴者が増加してくれば交渉も進められるかと思えます。

垣内議長 オーケストラ側から見てもアーカイブ配信はメリットだと思います。オーケストラ側がメリットを理解していない、それとも、自分たちでアーカイブ配信を行いたいと思っている、どちらなのでしょう。

ミュンヘン 基本的に出演契約はその日の公演に1回出演するだけの内容で、それ以上はありません。オンライン配信が普及する前、欧米などではテレビ収録をする場合、最低でも出演料の50%、多い場合は100%を要求する団体もあったと聞きます。放映するかどうかわからない状態でそれだけの費用をかけており、オーケストラ側に

は自分たちの肖像権を簡単に渡してはいけないという権利関係の意識があるかと思
います。ただ、オンライン配信の普及により、オーケストラ側の理解も徐々に進ん
でいるのも事実ですので、オーケストラ側の収益につながるような形になれば進ん
でいくと思います。

佐藤(敦) 委員 サマーミュージアムに参加するすべてのオーケストラには難しいと思
いますが、例
えばミュージアム川崎とそこを本拠地にする東京交響楽団が、お互いにアーカイブ配信の
メリットを享受できればファンからしても有難いと思いますが、難しいでしょうか。

ミュージアム 東京交響楽団は、理事が社長を務めているニコニコ動画で年間7、8本の公演を
配信しています。川崎市とフランチャイズ契約は結んでいますが、あくまでも独立
採算ですので、そこはタッチしていません。ミュージアムとしてはカメラ等の施設・設
備の常設化も含めて色々検討していますが、あくまでもホールの仕事の範囲でハー
ドウェアの整備などに努め、各オーケストラが持つ著作権・肖像権との両立を図り
ながら、新しいビジネスモデルの構築を進めている状況です。

垣内議長 では、資料2「文化アセスメント調査・評価シート(案)」について御意見、御質
問をお願いします。

藤嶋委員 美術はオンライン配信になじまないと感じます。職員が自分で映像を作成したと
ありましたが、他の事業と比較して脆弱であり、やはり予算化して事業として行う
方が良いです。市民ミュージアムのこともあり、美術の発展に関わる場所が無い状
況に対して、川崎市の将来展望などがあれば教えて下さい。

事務局 コロナ当初は先の見通しが立てづらく、オンライン配信については予算化できな
い状況でしたが、今後は予算化する見込みです。

垣内議長 オンライン配信のインパクトと可能性を評価しようとしていますが、この評価の
中で様々な角度から可能性が高いと判断されたものや具体的な提案、権利関係やア
ーカイブ、プラットフォームの構築などありました。これらを取りまとめて今回の
文化アセスメントの評価に落とし込むことができれば、事務局の方で勘案して今後
の予算要求にもつなげていただけないかという理解でよいでしょうか。

事務局 はい。問題ございません。

垣内議長 美術については、市民ミュージアムの被災した収蔵品のレスキューに時間と労力
がかかり活動が滞っている点もありますが、その活動を映像にしてオンライン配信
しています。今回、それを対象とすることもできましたが、全体のボリュームや多
様性を勘案してこの4つとしました。ただ、最後に市民ミュージアムも含めてオン
ライン配信の可能性について結論として加えることはできると思います。

川崎委員 今日の議論で出た権利関係やプラットフォーム、アーカイブの部分をうまく落
し込んでいただきたいです。また、事業の目的で文化芸術振興計画の基本目標1の
「文化芸術を活かしたまちづくりの推進」が大きな目的としてありますが、いわゆ
るデジタル化やオンライン化の波がある中で、そこは深堀をした方が良いでしょう。
コンサートや演劇、能などはある程度のプレゼンスを発揮できましたが、それが川
崎市にとってどうだったかという視点が欠けています。これまでは、来てもらえれ
ば飲食などで市に還元があったが、オンライン配信だと川崎市の存在が薄れる恐れ

があるため、その観点からプラットフォームや権利関係の整理などで川崎市が存在感を出す工夫が必要であり、妥当性の評価で求められると思います。

垣内議長 評価シートについて数字を決めるのか、各項目の意見を出せばいいのでしょうか。

事務局 数字を決めるのではなく、今回は委員の皆様から多くの意見をいただきたいです。

秋山委員 資料1-6に貴重な意見が多くあります。最後に今回の取組の全体についての感想・意見を取りまとめ報告資料に掲載した上で、川崎委員の指摘される「まちづくりにつなげていく」にはどうすればよいかという問題提起をするのが良いと思います。

犬飼委員 ミューザ川崎の事業は効果があったと感じましたが、映像のまち推進フォーラムなどは一般市民からすると市との関わりが分かりにくいです。また、全体として、コロナの時期にこのテーマで取り組んだことは大変良いと思いました。

垣内議長 資料1-6と今の御意見、ヒアリングでの質問やサジェスションなどを事務局で取りまとめて評価シートを作成します。さらに、皆様から補足をお願いします。

佐藤(敦)委員 2点あります。まず、川崎委員の御指摘通り文化芸術を活かしたまちづくりの推進はオンライン配信とはまた違うと思います。現地に行けないからオンライン配信であるわけで、基本目標1との整合性を取ることは難しいかと思います。2点目は評価対象としている4事業について、川崎市からの各団体間の規模による格差を埋めるサポートなどが無いと成立しないと思いました。

佐藤(昌)委員 私もこの4事業に格差を感じました。あまりこの4つの事業を一律にではなく、それぞれの方向性や事情を鑑みて評価していく必要があると思います。

関委員 私も今回の4事業については、コロナ禍において始めたものと、もともとオンライン配信事業を創るとい構えのものでは、今後の可能性が変わってくると思います。それから、演劇公演は、現状ではオンライン配信は難しいという印象があります。能楽堂の今回の事業は、手作りということで十分な作品が作れなかったことが残念です。オンライン配信は、能や狂言の世界、その魅力を市民の皆さんに伝えるに適している事業だと思います。そして、折角アクセスのよい所にある能楽堂です。活用できる内容を広げ充実させて活かしてほしいと思いました。

藤嶋委員 映像などは充実していますが、美術の視点が欠けていると感じます。色々問題がある中で美術の存在感を高めたいと改めて感じました。

垣内議長 3点あり、まずオンライン配信と一口にいても、分野によってマーケットもアプローチも違う、オーケストラと演劇や美術とではやるべきこと、やりたいことが相当違ってくるため、分野ごとに多様な創意工夫をすることの必要性を強く感じました。また、収益性を求めるとともに普及活動、先ほどの能楽などがまさにそうですが、それにふさわしい体制、コンテンツが求められるので、助成の仕方もそれぞれに対応した形が必要と思います。

2つ目は、今回で、インフラ、基本的なワーキングスペースのキャパシティの問題が浮き彫りになったと感じており、必要最低限のインフラは市で整備する必要があると思いました。

3つ目は、専門的な人材との関わりで、素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があることは明白で、プロの手を借りるべき部分と SNS での発信など素

人でもできる部分との棲み分け、関係性が大切であり、インハウスで施設に常駐させることは難しいため、どうマッチングさせるかが課題と思います。先ほどの j:com やケーブルテレビなどの地域資源と上手くコーディネーションを図ることが行政に求められる役割かと思いました。

改めて今日の各委員からの意見を事務局で取りまとめ、調査・評価シートに反映し、その内容をもとに文化アセスメント報告書を作成、次回会議にて提出して報告書として確定させるという流れで取り組んでいければと思います。

事務局 先ほど垣内議長からあった通り、6、7月に開催予定の次回会議にて令和3年度文化アセスメント報告書を確定する予定で進めます。また、先ほどの藤嶋委員からの美術が弱いということについて、以前このアセスメントでも取り上げました「Colors かわさき展」での360°カメラによる展示などの取組も実際ありますので補足させていただきます。本日はありがとうございました。

以上